

2024年11月18日
日本銀行富山事務所
藤澤知行

「富山県金融経済クォーターリー（2024年秋）」について

- ・先週11月14日に、「富山県金融経済クォーターリー（2024年秋）」を公表しました。

（前回からの変更点）

- ・富山県の景気は、「緩やかに回復しつつある」と判断しました。前回（2024年夏）は、「回復に向けた動きがみられている」としていましたので、2四半期ぶりに判断を引き上げています（直近の判断変更は2024年春）。
- ・判断を変更した項目は、以下の3つです。
 - ① 公共投資は、「着実に増加している」と判断を引き上げました（変更前は「足もと増加している」）。補正予算による災害復旧工事が受注され、公共工事が増加していることを踏まえた変更です。
 - ② 生産は、「このところ横ばい圏内の動きとなっている」と判断を引き下げました（変更前は「持ち直しつつある」）。このところ、電気機械などで弱めの動きがみられていることを踏まえた変更です。
 - ③ 雇用・所得環境は、「改善しつつある」と判断を引き上げました（変更前は「着実に持ち直している」）。雇用者所得が、春季労使交渉の結果等を反映して、高めの伸びとなっていることを踏まえた変更です。

（特徴点等）

- ・「富山県金融経済クォーターリー（2024年秋）」と同日、日本銀行金沢支店が公表した「北陸の金融経済月報」では、北陸の景気について、「緩やかに回復しつつある」から「緩やかに回復している」に判断を引き上げています。
- ・前回、富山県の景気を判断した時点（2024年7月）では、富山県の景気も、北陸の景気も、「回復に向けた動きがみられている」と同じ判断でしたので、今回の判断では、少しだけ、差が付く形となりました。

- ・これは、北陸全体で見れば、新幹線延伸等の効果により、福井県を中心に個人消費が回復しないしは持ち直しているのに対して、富山県では、これまでのところ、その押し上げ効果は、やや控え目となっていることによるものです。
- ・このため、北陸の個人消費の判断は、「物価上昇の影響に加え、一部に地震の影響もみられるものの、持ち直している」と前回¹から判断を引き上げていますが、富山県の個人消費は「回復に向けた動きがみられている」と判断を据え置いています。
- ・もっとも、今回の判断では、10月から始まった北陸地域を対象にした観光キャンペーンの効果については、データの制約もあり、十分に織り込んでいません。関係者からは、すでに効果を指摘する声が聴かれていますので、今後、富山県の観光関連需要についても、キャッチアップしていくことが期待されます。
- ・また、観光関連需要以外の個人消費についても、当面は物価上昇の影響を受けつつも、県内の雇用・所得環境が改善しつつある中で、先行き、回復の動きがしっかりとしてくると見込まれます。

以 上

¹ 「復旧復興関連需要に加え、一部に休業を余儀なくされる地域があるものの、政府による旅行支援制度の効果等もあって、回復に向けた動きがみられている」